

**令和3年度
学校関係者評価**

令和4年3月

奄美情報処理専門学校

奄美情報処理専門学校 専門課程
学校評価委員会

委員	卒業生就職先企業	代表取締役(業界関係者)
	卒業生就職先企業	統括本部長(業界関係者)
	在校生保護者	代表(保護者)
	奄美自動車学校	教官(卒業生 平成24年度卒)
立会人	奄美情報処理専門学校	学校長 事務局長

目 次

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標・重点目標	P 2
IV	評価項目の達成及び取組状況	P 3～16
	(1) 教育理念・目標	P 3
	(2) 学校運営	P 4
	(3) 教育活動	P 5～6
	(4) 学修成果	P 7
	(5) 学生支援	P 8
	(6) 教育環境	P 9
	(7) 学生の受入れ募集	P 10
	(8) 財務	P 11
	(9) 法令等の遵守	P 12
	(10) 社会貢献、地域貢献	P 13
	(11) 国際交流	P 14
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 15

I 学校の現況

(1) 学校名 奄美情報処理専門学校学校

(2) 所在地 〒894-0012
鹿児島県奄美市名瀬小俣町3-50

(3) 沿革

平成14年4月	奄美情報処理専門学校の前身、「奄美情報処理専門学院」を奄美市末広町に開校
平成17年4月	鹿児島県知事に認可され、名称を「奄美情報処理専門学校」と改め、専修学校として新たにスタート
令和1年9月	高等教育の修学支援新制度 文部科学省 認可 システム情報処理科

(4) 学科の構成

課程名	学科名	修業年限
工業専門課程	システム情報処理科	2年

(5) 学生数及び教職員数（令和3年5月1日現在）

学生数

学科名	1年	2年	合計
システム情報処理科	18	12	30
計	18	12	30

教職員数： 専任3名 講師8名(産学連携 4名)

Ⅱ 評価の基本方針

社会から求められる人材を育成し、社会経済発展に寄与する学校となるためには、学校運営に関する点検、評価、改善が不可欠である。本校の教育理念・学校運営・教育活動について行った学校自己評価を基に「学校関係者評価委員会」に選任された委員による学校関係者評価を実施し、評価結果を学校運営等の改善に活用する。これにより学校運営が適切になされると共に、社会から必要をされる学校とすることを基本方針としている。

奄美情報処理専門学校における学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』『奄美情報処理専門学校関係者評価委員会規程』に則って行うこととする。

Ⅲ 教育目標・重点目標

(1) 実践的技術教育を通じて、工学的知識・技術の基本を備え新しい“もの”の創造・開発に粘り強く挑戦できる技術者を育成する。

(2) 豊かな教養、技術者としての倫理観を身につけさせ、社会に貢献できる広い視野を持った技術者を育成する。

(3) 産業のグローバル化に伴い、国際社会において自分の考えを表現できる表現力やコミュニケーション力を備えた技術者を育成する。

IV. 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・目標

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1	0
1-2	学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1	0
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1	0
1-4	学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1	0
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1	0

① 課題

- ・学校の理念・目標・育成人材像の見直しを行うが、時代の変化・ニーズに対応出来ているかが課題。

②今後の改善方策

- ・第三者委員会等を含めて、ニーズ等時代に錯誤していないか聞き取りを行い、変革を続けるIT社会に適応するため、必要なスキル並びに人物像をより明確に示すこと。今後も自己評価等はインターネットからも閲覧可能なので、同様に周知活動を行う。

③特記事項

- ・来年度もコロナ過が続くと予想されるが、参加出来るイベント等に参加し、学校PR活動を継続していく。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・本校から採用した人物が各々活躍している姿は、社会的ニーズに合った人材を輩出していると思います。つまり方向性は間違っていないと思う。

(2) 学校運営

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	③	②	①	①
2-6	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	0
2-7	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	③	2	1	0
2-8	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	④	3	2	1	0
2-9	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1	0
2-10	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1	0
2-11	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	0
2-12	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	0
2-13	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	③	2	1	0

①課題

- ・コロナウィルス対策にてリモート授業方法などの効率化

②今後の改善方策

- ・学校は基本対面授業を行うが、緊急事態宣言下や陽性者が出た場合を想定してのスムーズな遠隔授業切り替え

③特記事項

- ・地域の商工会議所など有識者に必要な知識(就業規則等)についてアドバイスを受ける。
- ・月に1日は全学生遠隔授業の日を設け、遠隔授業操作に順応する。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・今後テレワーク主体の世の中になった時の為、時代に遅れない教育・環境作りを心掛ける。
- ・コロナウィルスが無くなったとしても、テレワーク、リモート社会は継続すると思われる。対面との使い分け、メリットデメリットをしっかりと意識して使い分けて頂きたい。

(3) 教育活動

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
3-14	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1	0
3-15	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1	0
3-16	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	0
3-17	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1	0
3-18	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行なわれているか	④	3	2	1	0
3-19	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1	0
3-20	授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1	0
3-21	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1	0
3-22	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	0
3-23	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	0
3-24	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1	0
3-25	関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行なわれているか	④	3	2	1	0
3-26	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行なわれているか	④	3	2	1	0
3-27	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1	0

(3) 教育活動

①課題

- ・授業を担当できる教員の人材発掘及び育成。昨今の雇用情勢を受け、必要な人材を確保することが困難となっている。
- ・業界ニーズや在校生の意見を参考に、カリキュラムの検討見直しを行う。

②今後の改善方策

- ・本校は1学科のみで大規模なカリキュラム変更は難しいが、小規模だとスムーズに変更出来ると考えている。
- ・学習成果の出ない学生に対しての時間外の補講授業の実施と併せ、成績上位者に対しては資格取得のための体制を検討、確立する。

③特記事項

- ・関連分野の企業と連携を開始した特別授業が、4年目を終えることが出来た。
- ※現在2社の企業が本校学生を対象に特別授業、給付型奨学金を行っている。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・島外研修は学校運営と要相談しながら、参加不参加(研修内容の優先順位等で)を決めて頂きたい。

(4) 学習成果

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
4-28	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	0
4-29	資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1	0
4-30	退学率の低減が図られているか	4	③	2	1	0
4-31	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1	0
4-32	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	0

① 課題

- ・令和3年度退学者1名 学習意欲の低下及び社会的不適応(引きこもり等)

②今後の改善方策

- ・今回の退学者は長期休暇後に欠席しがちになったので、不安がある学生はこまめに面談し、心理面サポートを出来るかぎり行う。
- ・卒業生の状況、評価、学校への要望等把握のため、情報収集の具体的方策の検討。

③特記事項

- ・外国人留学生は全て就職出来た。(経営ビザ、特定技能ビザ等)外国人留学生の就職は容易ではない。
- ・県外の企業とも引き続き連携し、態勢を整えていく。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・外国人留学生に関して、受け入れ態勢や学習支援など様々な問題に引き続き対応してもらいたい、他の学生に関してもこれまで通り教育指導に精進して頂きたい。

(5) 学生支援

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
5-33	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	0
5-34	学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1	0
5-35	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	0
5-36	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	0
5-37	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	0
5-38	学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1	0
5-39	保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1	0
5-40	卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1	0
5-41	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	0
5-42	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行なわれているか	④	3	2	1	0

① 課題

- ・コロナ禍の経済ダメージで進路決定(就職や専門学校を続けるかなど)に影響が出る恐れがある。
- ・経済的支援については、本校独自の給付型奨学金や日本学生支援機構奨学制度、国の教育ローン、また金融機関と提携による支援制度等、体制は整っているが、入学時必要な納付金に対する奨学金制度の充実が今後求められる。

②今後の改善方策

- ・学生や保護者が納得のいくよう就職活動を進めていく。
- ・可能なら研修旅行を実施し、採用試験や内定企業への挨拶など行う。就職後や県外で一人暮らしの生活するイメージを意識してもらう。

③特記事項

- ・例年研修旅行は実施していましたが、コロナウィルスの影響で2020年から実施していません。※強制ではなく、任意参加です。本校は離島にあるため、就職で県外に引っ越しすると生活環境が大きく変わるので、
- ・前年度から東京都のIT企業が給付型奨学金を実施(2年生対象 月3万円 計36万円)
来年度も継続して実施する予定です。※現在本校の独自給付型奨学金は、WEB制作会社の教育支援金含め2つあります。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・新型コロナウイルス感染症の流行等もあり厳しい状況情勢が続くが、学生に対して手厚い対応を望みます。

(6) 教育環境

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
6-43	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1	0
6-44	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1	0
6-45	防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1	0

①課題

- ・施設建物は行政から借用しているが、修理等は基本実費。

※昔使用していた渡り廊下に木製の雨避けがあったが、台風の影響で激しく破損した。撤去作業を奄美市教育委員会が実施。

②今後の改善方策

- ・学外実習施設については、常に新たな情報を取り入れ、社会の動きに応じた内容の見直しを図る。※学外の実習、インターンシップは、地域の施設を利用できるよう企業と連携を模索中

③特記事項

- ・防災に関しては、定期的に検査があり、不備があればその都度、直している。
- ・今後も行政や自治体と連携して、円滑な関係を構築し、教育環境を整えていきたいと考えています。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・企業から直接学べるのはとてもいい機会だと感じる。来年度も継続できるよう企業との連携を図ってください。

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
7-46	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1	0
7-47	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1	0
7-48	学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1	0

①課題

- ・学生募集に関しては、真実性、明瞭性、公平性、法令順守等、十分な検討がなされ適正に行われているが、情報をより正確に分かりやすく伝える工夫は今後必要である。
- ・今後少子化が進む中でも、定員を充足しないといけない。

②今後の改善方策

- ・情報を明確に分かりやすく伝えるため、パンフレット・ホームページ等の記載方法について、改善を検討する。
- ・現在も極力参加出来るものは参加しているが、各高校の進路ガイダンスや地域事業所の主催の説明会にも参加し、学生へPRする。

③特記事項

- ・本校の募集活動は、鹿児島県専修学校協会の規定に則り正しく募集している。
- ・高校訪問、高校での進路ガイダンスや模擬授業、相談会、本校への見学会等を実施。適切で十分な情報提供を行っている。
- ・本校の特色、就職状況などの教育成果、在学生・卒業生の声や本校でのキャンパスライフ等は、SNSやホームページ等で公開し、適切な進路選択ができるよう努めている。
- ・令和3年度に限ってはコロナ過で経済的な問題で進路変更する学生が出てくる可能性があるため、国の奨学金・民間の奨学金等も合わせてチェックし、学生の受け入れ態勢を整える。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・学生募集と受け入れは適切に行われているが募集に繋がるかどうかは別だと考えている。バランスを確認しながら受入を行ってください。

(8) 財務

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		4	3	2	1	0
8-49	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	0
8-50	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	0
8-51	財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	③	2	1	0
8-52	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1	0

①課題

- ・さらなる財務基盤の安定化

②今後の改善方策

- ・より魅力ある学校作り(設置学科カリキュラム見直し、施設・設備の充実など)に力を入れ、学生数増加に繋げ、収益を確保する。

③特記事項

- ・財務における監査は、外部監査人である税理士が実施されており、適正な監査が行われている。
- ・財務状況(貸借対照表、損益計算書)は本校のWebサイトにて公開している。
- ・本校は補助金なしで運営している。
- ・今年は学生コロナ緊急支援金を取得し、該当者には支援金を申請した。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・補助金なしで運営を続けるのはとても難しいと考える。安定化を目指し努力してください。

(9) 法令等の遵守

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
9-53	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	0
9-54	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1	0
9-55	自己評価の実施と問題点の改善を行なっているか	④	3	2	1	0
9-56	自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1	0

①課題

- ・個人情報保護の対策は取られているが、常に意識を高めるため、定期的または随時の研修会等が必要。
- ・自己評価の問題点の改善は、職員一人一人の抱える仕事量が多すぎてなかなか進まない。

②今後の改善方策

- ・自己評価の改善点については、直ちに改善できる項目と改善が長期にわたる項目とを分け、改善状況を随時チェックできる体制を確立する。
- ・職員を増やす。システム化で効率のいい事務処理を行う。本校学校教育に賛同してくれる企業等に協力を得る。

③特記事項

- ・本校ホームページに、学校自己評価報告書、学校関係評価報告書、電波学園財務情報を掲載し、情報を公開している。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・法令等は厳守されている。

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		4	3	2	1	0
10-57	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1	0
10-58	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1	0
10-59	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1	0

① 課題

- ・ 学生ボランティア活動は奨励しているが、コロナ過で活動が制限されている。
- ・ 遠方への出張講座は、就業時間外ではできない。

②今後の改善方策

- ・ 新たなボランティア活動への取り組みを模索し、参加可能な活動を選定して奨励していく。
- ・ コロナが収束した際に、ボランティア含めた活動をすばやく行えるよう備えておく。

③特記事項

- ・ 年に数回ボランティア活動として、地域清掃や外部受入授業・進路ガイダンスに参加している。また国内等で災害など発生した場合等、募金活動を自発的に行っている。
- ・ これから実施するイベントの規模、対象者、感染防止をしっかりと検討し、行えるものは行っていく方向で考えている。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・ 積極的に社会貢献を行っている。今後も様々な活動に取り組んで頂きたい。

(11) 国際交流

	評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0				
		④	3	2	1	0
11-60	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1	0
11-61	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	0
11-62	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整理されているか	④	3	2	1	0
11-63	学習成果が国内外で評価される取り組みを行なっているか	④	3	2	1	0

①課題

- ・直接の留学生受け入れは、まだしていない。（日本語学校卒業生のみ）
- ・企業から求められるコミュニケーション力向上も課題。
- ・留学生就職先の確保および拡大が必要。

②今後の改善方策

- ・日本語学校訪問を実施し、本校の教育内容を明確に伝え、入学のミスマッチを無くす。
- ・留学生の目的に沿ったサポート、学習を引き続き継続していく。
- ・就職先確保のための企業訪問の実施。

③特記事項

・今年度は留学生3名卒業し、就職することが出来た。内留学生1名が企業をし、経営ビザを取得することが出来ました。※別に留学生1名を雇用し、会社を運営しています。今後も学習を通じて、社会に貢献出来る人材を育成を目標に続けていく。

④学校関係者評価委員会による評価

・コロナウィルスの影響で奄美大島島内の日本語学校は閉校に追い込まれた。本校はその危機を乗り越えていけると信じている。その為にも具体的な目標を掲げ、健全な学校運営を目指す。

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・コロナ過でインターンシップ受け入れが中止となった。次年度開催出来るなら是非地域貢献の為、実施したい。(前年度)※本校が職場として、中高生向けインターンシップ。
→今年度は高校生を対象としたインターンシップ受入を行うことが出来ました。出来る限り地域貢献のため、実施していきたいと考えています。

今後も学校運営の安定化を目標にあらゆる情報を活かしていきたい。

総合評価

学校方針の基本的な考え方として、

(1) 実践的技術教育を通じて、工学的知識・技術の基本を備え新しい“もの”の創造・開発に粘り強く挑戦できる技術者を育成する。

(2) 豊かな教養、技術者としての倫理観を身につけさせ、社会に貢献できる広い視野を持った技術者を育成する。

(3) 産業のグローバル化に伴い、国際社会において自分の考えを表現できる表現力やコミュニケーション力を備えた技術者を育成する。

を掲げ、本年も活動してきた。かなりの部分が改善改革が進められてきたが、まだまだ課題が残る項目も見受けられる。来年度以降も残された課題を一つ一つ確実に改善改革に取り組む所存である。

・コロナ過という大変な状況の中、学校運営の安定化をめざし、学生ファーストの学校作り継続していく。

・リモート授業など新たな取り組みも行う事が出来た。次年度も臨機応変に対応するよう職員、外部講師と連携を取る。

・本校独自の給付型奨学金など少しずつだが、学校の特色が出てきており、周りに周知されてきているが、まだまだ足りないと感じている。奄美大島の高校生含む、他の地域にもPR出来るよう努力していく。今後も学校運営の安定化を目標にあらゆる情報を活かしていきたい。

学校関係者統括

近年はコロナウィルスの影響で経済にダメージを与えている。勿論その影響は全国から九州→奄美と余波を感じている。このような困難な時代にも立ち向かっていけるような人材教育。地方自治体等がDX化を昨今進めている中で、奄美情報処理専門学校もデジタル技術の活用及び学習のあり方を随時見直して頂ければと考えている。固定観念を捨て、教育の理想とデジタルを融合させ奄美情報処理専門学校スタイルを確立させてください。